



2 避難時の心得

1 状況に応じてすばやく避難しましょう

市からの避難情報が発せられる前でも、気象情報や風雨の状況により自己判断で避難しましょう。

3 そとに避難する時はあわてずに

そとに避難する時は瓦やガラスなどの落下物、飛来物に注意しましょう。裸足でそとに出ると足にけがをしますので、運動靴など歩きやすい靴をはいて落ち着いて行動しましょう。

5 避難は徒歩で

道路の損壊や倒壊物、浸水深 30 cm 以上、交通集中による渋滞などにより通行が困難になったり、緊急車両の妨げにもなりますので、自動車による避難は避けましょう。

2 動きやすい格好で、持出品は最小限に

動きやすい服装や運動靴などで避難しましょう。非常持出品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

4 みんなで助け合いましょう

できるだけ近所の人たちと集団で避難しましょう。家族、隣近所、地域みんなで助け合い、避難が困難な方に手助けしましょう。

6 塀ぎわや狭い路地、がけ、川のそばに近づかない

ブロック塀や門柱、自動販売機など倒れやすいものに近づかず、がけや川のそばの通行も避けましょう。

風水害避難時の注意点

台風や大雨の状況は、事前に天気予報などの気象情報によりある程度予測することが可能です。テレビ、ラジオなどで最新の情報を知り、早めの避難を心がけましょう。がけや川の近くに住む人は、特に注意が必要です。

- ・子供や高齢者から目を離さないようにしましょう。
- ・浸水時の歩行は、細心の注意を払い、棒などで水中のマンホールや溝に注意しましょう。流れがある場合や深い場合は高いところに避難し、救助を待ちましょう。
- ・雨が強く、避難することが危険な場合がありますので、自宅の2階部分やがけから離れた部屋などで待機しましょう。また、暴風の場合もそとに出ず、窓が少ない部屋などで待機しましょう。

